

# 2年ぶり2度目のV

ウエッジが得意

〈九州女子ミッド〉

3オーバー 75 今田 夢美(筑紫ヶ丘)



初出場で初優勝した2018年から1年おいて、また頂点に立った。「我慢のゴルフでした。前半はショットが良くて2メートル以内のバーディーパットを4つ外して。後半はショットが悪くなった」。前半のアウトはオールパーの36。後半になると、ボギーが先行し、1バーディー、4ボギーの39。結果的にはアウトのバーディーチャンスをもものにはできなかったものの、36というスコアは出場40選手の中では「ベストハーフ」となっ

た。

台風9号の影響で風が強く、おまけに一定方向ではなく、多くのプレーヤーが苦しめられた。そんな状況下で今田は踏ん張った。得意なクラブは52、58度のウエッジ。「たとえグリーンエッジからでもパターは持たずにウエッジ」というほど自信を持つ。大会前には4度、麻生飯塚GCを回ったが、ウエッジで3回のチップイン。その中には80ヤードのイーグルも含まれる。グリーン周りの強さが今田の武器である。

11歳からゴルフを始め、古閑美保や上田桃子らを輩出したプロゴルファー坂田信弘主宰の「坂田塾」出身の3期生。同期には青山香織プロがいる。今田は一時、プロを目指しながらも、ゴルフから7年間も遠ざかることになる。「燃え尽き症候群でしょうか。遊びたかったし、思春期をゴルフに捧げた」と笑うが、3年前から再び本格的にクラブを握り始めた。そして、2年前の今大会制覇につながっていく。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で日本女子ミッドアマチュア選手権は中止。会場が福岡市の福岡カンツリー倶楽部(通称和白)で開かれる予定だっただけに「和白でやりたかった。今年はどうもいきませんね」と今田は複雑な表情を浮かべた。

# 4度目出場で初優勝

芝目を読むのが得意

〈九州女子シニア〉

4オーバー 76 本田 千鶴(高遊原)



ぽっちゃりとした体全体で喜びを表現した。「うれしいです。風があったので(4オーバーは)でき過ぎ。47・47くらいと思っていました」。大会前の2度の練習ラウンドはいずれも80台のスコアだっただけに、謙遜しながらも本田本人もちょっとびっくりだ。

インからスタートした前半はバーディーなしの4ボギーの40。しかし、後半になると1番で5メートルのバーディーパットを沈めると、4、5番でも1メートル前後につけて1オーバーまで戻した。ところが、雨に見舞われた6番で第1打を左OBしてダブルボギー、7番でもボギーをたたき、ハーフターン時のスコアに。流れは決して良くはなかったが、残り2ホールを耐えて逃げ切った。

今大会初出場の3年前から3位タイ、21位タイ、13位タイときて今回、女王に輝く。現在の職業は高遊原CC(熊本)でキャディーをする。今年で17年。その前には5年間、同じ熊本県の阿蘇大津GCで働いた。ゴルフを始めたのは「3人の子供の子育てが終わった」阿蘇大津GCに勤務していたころから。40歳を過ぎてから本格的にゴルフに取り組んだ。職業柄、最も得意とするのは「芝目を読む」こと。「それは自信があります」ときっぱりと言った。この日の15番ミドルではラフにつかまり、4オンしてボギーパットは残り13メートル。これを本田は見事にカップインし、ダブルボギーを免れた。ラインの読みがばっちりだったのである。

「今回は出ないつもりでしたが、研修会の人たちが『出れ、出れ』と言うものですから。出て良かった。ゴルフをやっていて良かったし、開催されなかったら優勝もなかった。本当にありがたい」と本田は頭を下げた。



大会が開催された麻生飯塚ゴルフ倶楽部